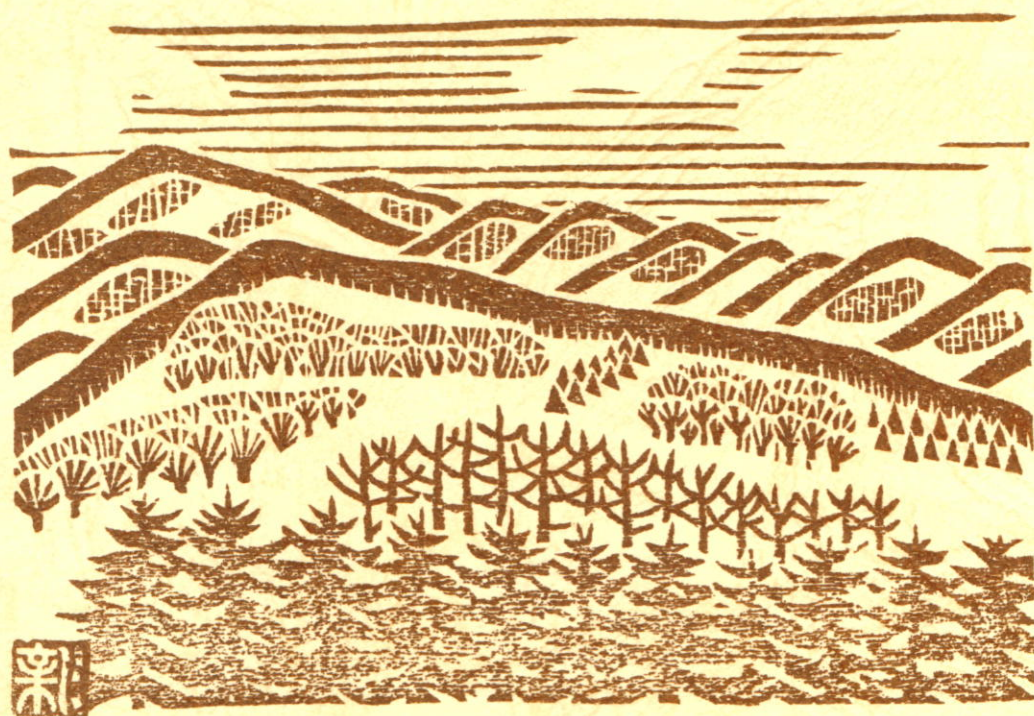


(社)日本雪氷学会北海道支部機関誌

I S S N - 1340 - 7368

北海道の雪氷

第18号



1999年 8 月

発行 (社)日本雪氷学会北海道支部

目次

巻頭言	1
1999年度研究発表会講演要旨	2
1998年度事業報告	57
1998年度会計報告	61
1999年度事業計画	63
1999年度会計計画	64
1999年度北海道支部役員名簿	65
日本雪氷学会と道内関係機関のホームページ	66
社団法人日本雪氷学会北海道支部規約	67

(表紙 画：斉藤新一郎、題字：福沢卓也)

巻頭言

支部幹事長 水野 悠紀子（北大低温科学研究所）

本誌『北海道の雪氷』が支部の機関誌として産声を上げたのが昭和 57 年、当時の支部長は木下誠一先生（現北大名誉教授・流水科学センター長）でした。発刊の経緯については、本誌 11 号の巻頭言に低温科学研究所の古川義純氏が書かれているように、札幌中心になりがちな支部行事に参加できなかった会員の皆様に、その内容を伝達し、支部活動の発展を促すことが目的でした。それまで、支部の行事として、毎年、総会、講演会、談話会、見学会、講習会が行われていましたが、昭和 56 年から研究発表会を定期的に行うことになったことも、本誌発刊の原動力になったように記憶しています。当時、私も幹事の一人として、第 1 号の発刊にたずさわりましたが、内容や、体裁について、手探りの状態であったことが思い出されます。以来、会員の皆様のご協力と、ご支援、歴代役員の方々のご尽力で今年 18 号の発行をみることができました。

今年は支部設立 40 年にあたります。創立 30 周年記念号（第 8 号）に、当時の支部長の若濱五郎先生（現北大名誉教授）と木下誠一先生が、それぞれ「30 周年迎えた雪氷学会支部」、「日本雪氷学会北海道支部 30 年を顧みて」と題して、支部設立の経緯、雪氷研究の変遷や動向について詳しく述べておられます。設立からの 30 年間で本誌、第 8 号に凝縮されて記録されていることは、支部 40 年の歴史にとって意義深いことだと思います。はじめの数号は内容や体裁も異なりますが、昭和 56 年からの支部研究発表会の講演要旨はすべて本誌に収められています。研究発表会は毎年札幌で開かれることもあり、遠方の会員の参加が難しいこと、また、支部の研究発表会で発表されなかった非常に多くの研究があることは否めませんが、本誌は北海道の雪氷研究の推移を知ることができる貴重な存在ということができるといえるでしょう。

北海道の生活は雪氷や寒冷ときりはなすことはできません。したがって、研究対象も、年々の気象、環境の変化、社会的要請を反映することにもなります。この 10 年の間に、私達はかつて経験をしたことのない、恐るべき冬道と日常的につきあうことになりました。いわゆる“つるつる道路”です。きれいな空気の代償の大きさを痛感することになりました。これを含め、雪対策に関するさまざまな研究が行われ、また、利雪の研究が実用化へと大きな進展をとげました。

北海道支部には約 250 名の会員の方がいらっしゃいます。雪氷に対する関心や研究分野はさまざまで、まさに学際的ということになります。しかし、現実には、雪氷学会という大きな枠組みにあって、研究はより専門化、細分化される傾向にあります。このことは研究を極め、効率を高める上で当然のことといえるでしょうが、その結果、自分の専門分野以外への関心が失われがちになることも否めません。さまざまな研究に接し、互いに刺激をうけあう場としての研究発表会が、学会の学際性を実質的に発揮する場になり、ますます本誌が充実したものになるよう、会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

(社) 日本雪氷学会北海道支部 1999 年度研究発表会講演要旨

日 時：1999 年 6 月 24 日 (木) 13:30~17:45

場 所：北海道大学学術交流会館 第 1 会議室

13:30~14:30 座長：深見浩司 (北海道立地下資源調査所)

- 1 海氷成長における放射特性の変化
○滝沢厚詩、石川信敬、白澤邦男、河村俊行、石川正雄、高塚 徹
大坊孝春 (北大低温研) 3
- 2 オホーツク海の高氷と冬の気象循環との相互作用
山崎孝治 (北大院・地球環境) 7
- 3 流氷観光砕氷船おーろら号による海氷厚観測
○酒田千尋、中村和樹、西尾文彦 (北海道教育大学・釧路) 11
- 4 山地積雪水量の多点調査
○中村 亮、石井吉之 (北大低温研)、野村 睦
小澤 恵 (北大演習林) 15

14:40~15:40 座長：尾関俊浩 (北大院・工・雪氷工学)

- 5 雪崩発生監視と予知システムの開発による道路防災対策の研究 (I)
○西村浩一 (北大低温研)、八久保晶弘 (北見工大)
松澤 勝 (開発土木研究所) 19
- 6 札幌圏ホワイトネット実験プロジェクト
ー冬期道路管理の情報共有システムー
○中村直久、加治屋安彦、松澤 勝 (開発土木研究所) 23
- 7 国道 272 号別海町春別地区における防雪林造成の樹種配置および成長量の
予測について
斎藤新一郎 (専修大学北海道短期大学) 27
- 8 間伐木による仮設防雪林造りの提案ー奈井江町宮村地区の場合
斎藤新一郎 (専修大学北海道短期大学) (講演のみ)

15:50~16:50 座長：石井吉之 (北大低温研)

- 9 積雪軌道周辺における可聴音特性に関する一考察
○依田英之、尾関俊浩、北川弘光 (北大院・工)、近藤篤 (JR 北海道) 31
- 10 サーマルプローブ法による農耕用土壌の熱伝導率測定
○佐山惣吾 (寒地技研)、緒方敏夫、本間専治、皆川秀紀、原口謙策
三浦健一 (北工研)、酒井好夫 (寒地技研)、長谷川寿保 (飼料作物
種子協会) 35
- 11 アイスシェル in トマム
粉川 牧 (北海道東海大学) 39
- 12 勾配屋根における屋根上積雪荷重の評価に関する研究
○千葉隆弘、苔米地 司 (北海道工業大学) 43

17:00~17:45 座長：高橋庸哉 (北海道教育大学)

- 13 キューブアイスを使った教育実験
矢作 裕 (北海道教育大学・釧路) 47
- 14 「気圧」の理解を深める生徒実験ー利雪水気圧変化計の製作と実験ー
○宮嶋衛次、永田敏夫 (北海道立理科教育センター) 51
- 15 ペットボトルで雪の結晶をつくる (II)
ー結晶形の変化など、その後得られた知見ー
平松和彦 (北海道旭川西高等学校) 55